

⑤ エイドリアン・ゴールズワージー 著
『図説 古代ローマの戦い』

(東洋書林)

ローマの歴史は常に戦争が主役でした。ローマが大帝国に成長するに至ったのは、敵を撃破し、他民族を吸収しながら徐々に拡大していったことによりですが、同時にローマ軍団は城砦建設、船舶の建造、河川の架橋などにおいても優秀な技術力を発揮し、組織力に優れたプロの軍団であったことです。

本書はローマの勃興から地中海世界の大帝への拡大、そして衰退に至るまでの富と栄光を追い続けた姿をドラマチックに描いており、古代ローマ史の良き手引き書でもあります。

232-Gol (T.K.)

⑦ 木村佳友、毎日新聞阪神支局取材班 著
『介助犬シンシア』

(新潮社)

2002年10月に補助犬法が施行され、身体障害者への介助犬の同伴が法的に認められました。

本書は、1998年から毎日新聞地域面に連載されている宝塚市の木村佳友さんと介助犬シンシアの記事をまとめたものです。事故で車椅子生活となった木村さんの家にやってきたシンシアは、介助犬として成長してゆきます。しかし、盲導犬と比べ認知度の低い介助犬は、公共の場所への入場を拒否されることもしばしばでした。木村さんとシンシアと彼らを囲む人々の補助犬法成立までの奮闘ぶりが伝わってくる1冊です。

369.27-Kim (I.W.)



⑥ 垂細亜大学ことわざ比較研究プロジェクト 編
『捕らぬ狸は皮算用？：
世界14言語動物ことわざワールド』

(白帝社)

本書には、動物別に14言語のことわざが集められています。タイでは魚が一番多く登場し、モンゴルでは馬、アラビアは鶏などと、ことわざにもお国柄が出ています。たとえば、日本語では仲が悪いことを「犬猿の仲」と言いますが、ロシアでは犬と猫になるそうです。

国によって動物のイメージの違いがよくわかるように構成されています。ことわざで異文化交流を楽しみましょう。

388.8-Tora (N.K.)

⑧ 京都外国語大学イスパニア語学科 編
『スペイン語世界のことばと文化』

(行路社)

イスパニア語学科は昭和38年、大学院は昭和47年に開設されました。本書は学科創設40周年を迎えるのにあたり出版されたもので、同学科では創設25周年以降5年ごとに論文集を刊行しています。

「文学の世界」「言語の世界」「文化と歴史」から成り、本学の学科専任教員等の執筆です。

スペイン語は現在世界の約20カ国の公用語で、3億を越す人が話していると推定されています。

内容は高度ながら、初心者にも研究の糸口となる内容もみられます。

302.36-Supe (S.O.)